

学級経営力の向上を目指した研修資料の開発

— 初任者・若手教員に焦点を当てて —

所属校：足立区立舎人第一小学校

氏名：磯 香 織

派遣先：東京学芸大学教職大学院

キーワード：学級経営・初任者教員・若手教員・研修資料

I 研究の目的

「学校は、児童にとってのびのびと過ごせる楽しい場でなければならない。児童一人一人は興味や関心などが異なることを前提に、児童が自分の特徴に気づき、よい所を伸ばし、存在感を実感することが求められる」（文部科学省「小学校学習指導要領解説総則編」平成20年8月）とあるように、学級での学習や生活が楽しく居心地のよいものであることが大切である。特に小学校においては、学級担任自らが学級の児童と接する時間が長く、児童に対する理解や判断、指導が学級担任に大きくゆだねられている。学級担任の学級づくりの指導力をあげていくことがますます求められている。

ところが、「小学校の初任者教諭では、約80%の者が、学級経営について困難や課題として感じたこととして『学級集団の掌握や指導の仕方』『個々の児童理解や指導』を挙げている。また『年度当初の学級づくり』について困難を感じた者も同じ程度あった。」（東京都教職員研修センター「初任者教諭育成に関する指導資料」平成19年3月）とある。つまり初任者にとって学級をどのように作りあげていくか、そのための指導の在り方が悩みの一つとなっていると考えられる。

そこで本研究では、まず学級経営の意義と必要とされる力を明らかにする。そして学校現場で急増している初任者教員や若手教員が、望ましい学級集団づくりができるための研修資料を開発し、その活用方法を示していく。

II 研究の方法

- 1 学級経営の課題についての調査（文献・資料）
- 2 学級経営の適切な進め方について先行的な研究と実践の調査（文献・資料）
- 3 学級経営研修資料の作成
- 4 学級経営研修資料の活用方法の検討・提案

III 研究の結果

1 学級経営の意義と学級経営に必要な力

学級経営とは、学級において、人的・物的・運営的諸条件を統合的な見地から整備・調整し、児童・生徒の学習が有効に成立するような作用のことである。

学級経営の主体は学級担任であり、学級は学校の最も基本的な学習集団である。児童・生徒の学習は、学級生活の全体を通じて展開されるものであるが、教科指導そのものは含めない。東京都教員人材育成基本方針では教員に求められる基本的な4つの力の一つとして「学習指導力」を挙げているが、学級経営力はこの学習指導力を支えるものである。

そして小学校学習指導要領解説総則編によると、学級担任には学習が有効に成立する学級集団をつくるために次の4つの力をつけることが求められている。

まず学級担任には、学級経営の全体的な構想を立てる力が必要である。学級づくりへの意義、目的、内容、方法、評価を一体化して、その成果と課題を明確にし、常に改善への姿勢をもち続けていくことが大切となる。

次に学級の児童一人一人の実態を把握すること、すなわち確かな児童理解力が必要である。

3つめは、支持的な風土をもった学級づくりの力である。学級担任が認め合いや励まし合い、高め合いのできる学級をつくりたいと強く願い、実践していくことが重要である。学級づくりを支えるものの根底となるものは、望ましい学級づくりに向けて実践する教師の人間性と指導の力量ととらえることができる。

4つめは、学年・学校との連携力・保護者との連携力である。学級担任は自分一人の力だけでなく、学校内外の様々な人と協働して学級経営を進めていくことが必要である。

2 学級経営研修資料「学級経営チェックリスト」の開発

現在行われている初任者研修、2・3年次研修や4年次授業研究などの研修体制では、特に授業力の向上に重点が置かれている。しかし、学級経営に限ってみれば、初任者研修等で指導担当教諭が指導した後は、学年を組んだ教員に相談し、指導・助言を受ける以外にはなかなか研修の機会をもてないものである。

そこで、学級経営研修資料の開発の視点を次のようにとらえた。

- ・初任者教員や若手教員が自ら学級経営を評価し、改善・修正点を把握して実践できる。
- ・指導担当教員が初任者教員や若手教員の学級経営力について評価し、特徴や課題を把握し、目標を立て、指導・助言をする指標とする。
- ・年間を通じて、継続して資料を活用し、研修を行えるようにする。
- ・初任者教員から3・4年目の教員を対象とする。
- ・学級経営に必要とされる指導力ごとに基本的な考え方と進める上での工夫と配慮事項、具体的な指導例、そして学級経営を振り返るためのチェックポイントを示す。
- ・チェックポイントの項目は、学級経営についての先行研究、および実践事例から効果的と思われるものを選び出す。

3 「学級経営チェックリスト」の活用方法

【学年の始め】

- ・学級経営研修資料を読み、学級経営に必要とされる指導力ごとに基本的な考え方と進める上での工夫と配慮事項の理解を図る。
- ・具体的な指導例を読み、学級経営をどのように進めていくか、方針や方法を確認する。
- ・チェックリストに示してある「4月には達成したいこと」について、その内容を確認し、まず学年始めの若手教員が達成させたい目標として研修を進める。

【4月の終わり】

- ・学年の始めの達成状況を若手教員、指導担当教員で話し合いながら、例えばA…十分できている、B…おおよそできている、C…できていないなどのように評価していく。
- ・達成状況が十分でない項目について、現在の学級の様子や指導方法等を話し合い、指導担当教員は場面や個に応じた具体的な助言をして、若手教員の改善点や修正点、努力点をはっきりさせていく。
- ・新たに取り組みたい内容を確認する。

【週ごとの指導計画記入時】

- ・若手教員は自己評価を行い、それをもとに指導担当教員と随時相談をしていく。

【各月末】

- ・若手教員は自己評価、指導担当教員は若手教員を評価する。
- ・評価にズレが生じた場合
 - 若手教員の評価が高い場合…若手教員のよさを認めながらも、まだ努力する余地があることを助言し

ていく。

○若手教員の評価が低い場合…評価した理由を話し合い、若手教員の学級経営の改善点や修正点が明らかになるよう助言していく。

- ・改善点や修正点について、学級経営の具体的な進め方についての目標を立て、研修を進めていく。

【学年末】

- ・一年間の実践をふり返り、成果と課題を話し合い、次年度に向けて改善点、目標を明らかにする。

4 研修事例

- (1) 若手教員が自己評価により、学級の課題を発見し、相談してきた事例。

A教員は低学年の担任である。「学級の目標等を意識させ、自分たちの行動や活動の見直しをさせている」の項目ができていないと評価したA教員が、その指導方法を相談してきた。学級の仲間と仲良く声をかけ合い、ともに助け合ったり、友達の言動を認め合ったりするなど、学級の仲間としての思いやりの意識を高めたいという願いをもっていた。

A教員に学級活動(2)の指導例を示し、一緒に指導案を検討し、実践を図った。

- (2) 若手教員の自己評価が、指導担当教員の評価より低く、励ました事例。

B教員は中学年の担任である。児童理解についてのチェックが、ほとんどがBかC評価であった。話を聞くと、最近学級の児童と気持ちがすれ違っているような気がして悩んでいるところであった。特に機会を逃さずほめたり、しかったりすることができず、「わかっているけれど…」と落ち込んでいた。

普段のB教員は、休み時間になると児童と一緒に校庭で遊ぶ姿をよく見かけ、児童も信頼している様子である。良さを伝えるとともに、授業での児童とのふれあいを大事にすること、児童の良い面はその場でできなかつたら後からでも必ず伝えていくことなどを助言した。1週間後には少し明るい表情になっていた。

IV 考察

若手教員の学級経営力を育成するために学級経営チェックリストを活用する。チェックリストを使い、学級経営について評価をする。その時々に応じて、児童への指導が適切かどうかを振り返り、指導例を参考にしたり、指導担当教員に相談したりしながら修正・改善を図っていく。指導担当教員は、若手教員の学級経営の特徴や課題を把握し、具体的な目標を設定して取りまわせるよう指導していくことで、効果的に研修を進めていくことができると考える。